



新連載の ご執筆者から

事例から考える刑事証拠法

慶應義塾大学教授

笹倉宏紀

SASAKURA Hiroki



東京大学准教授

成瀬 剛

NARUSE Go



京都大学教授

池田公博

IKEDA Kimihiro



東京大学教授

川出敏裕

KAWAIDE Toshihiro



➔ この連載は、刑事証拠法の主要な問題につき、具体的な事例を基にして検討と解説を行うものです。刑事訴訟法の授業をしていますと、捜査に関する問題などと比べて、証拠に関わる問題については、学生の皆さんが十分に理解できていないと感じることが少なくありません。その主たる要因は、授業の中で証拠法に充てることができる時間が限られており、授業の後半にいわば駆け足で説明をせざるをえない状態になっていることにありますが、それと同時に、捜査などと比べると、公判において証拠法が適用される場面というのは、学生の皆さんにとってイメージが持ちにくいものであることも原因の1つかと思います。

そこで、本連載では、読者の皆さんに具体的なイメージを持ってもらうために、判例や現在の実務の運用を素材とした事例を設定したうえで、そこで扱われている証拠法上の問題について、基本的な考え方を説明しながら、事例の解決のための道筋を示すことを目指します。また、教科書などでは、当然のこととしてあえて記載されていない事柄であっても、我々が授業をする中で、学生の皆さんが理解しにくいと感じているのではないかと思われる点や、教員の目から見ても誤解しやすいと思われる点も、積極的に取り上げていきたいと考えています。